

ほし 彩星 だより 第108号

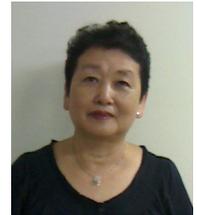


若年性認知症家族会・彩星の会会報 令和2年11月号

〒160-0022 新宿区新宿1-9-4 中公ビル御苑グリーンハイツ605
TEL 03-5919-4185/FAX 03-6380-5100 E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

巻頭言 「出会いと気づきに支えられて」

公益社団法人認知症の人と家族の会 大野 教子



「家族の会」のこと

私は、3年前に103歳で他界した義母の介護をきっかけに、1999年、当時の「呆け老人をかかえる家族の会」の世話人になりました。1980年に設立された「呆け老人をかかえる家族の会」はその名の通り、高齢のご本人を介護する家族主体の団体で、「介護者を支えることで本人をも支えることができる」という立場で電話相談・会報発行・会員のつどい開催を三本柱に活動を続けていました。

ところが2004年に介護家族主体、家族本位の考え方を大きく変える転機がありました。「家族の会」が加盟している国際アルツハイマー病協会の国際会議が本部のある京都で開催され、福岡県の越智さんはじめ世界各国の20名のご本人が発言されたのです。ご自分の思いを絞り出すように語っている姿にふれ、私は、介護者として被害者意識だけが強かった自分を恥じました。国際会議と「痴呆症から認知症へ」と呼称が代わったことが大きな契機となり、「呆け老人をかかえる家族の会」は本人と家族が共に歩む「認知症の人と家族の会」となったのです。

「彩星の会」との出会い

「彩星の会」が設立されたのは2001年、私が東京都支部の世話人になって2年目でした。2か月に1回開かれる定例会には多数のご家族とご本人が集まり、それぞれの交歓会を開き、専門職の方も多数参加し相談に対応しているという活動の様子を伺った時、ほんの少し羨望の念を抱いたことを覚えています。東京都支部でその体制を整えるにはあまりにもハードルが高かったからです。当時、若年性認知症の方が身近にいらっしゃることすら知る人は少なく、ましてや、仲間と出会う場はありませんでした。みなさんが隔月の定例会（定例会後の懇親会も）をどれほど待ち望んでいらしたか想像できます。ですから、東京都支部の電

話相談やつどいで若年性認知症の方を介護されているご家族から相談を受けた時は、今でも、必ずと言ってよいほど「彩星の会」をご紹介します。

ところで、国際会議後の2006年に、京都で貴会のご本人を含め7名が参加した「本人会議」が開かれました。会議で出された「本人会議アピール」（認知症の人と家族の会HPに掲載）には17の願いが込められています。現在、ご本人に対する理解が以前よりは広がったものの、14年前に願いを込めて発信したアピールの中身が、はたしてどれだけ実現しているのでしょうか。「本人会議アピール」は私にとって座右の銘であり試金石でも思っています。

これからのこと

コロナ禍で東京都支部は4月から2か月間活動を休止し、6月からは活動を半減しながら細々と継続、10月からは感染状況を見ながら通常に戻していくことになりました。「彩星の会」では、不自由で閉塞状況にいるからこそ仲間と繋がりたい、顔を見て話をしたいとの思いを叶えるために、4月の段階でZoom会議を取り入れる準備に精力的にとりかかっていたと伺いました。貴会の行動力に圧倒されながらも、東京都支部の6・7月のつどいでは貴会の会員でもある方に全面的にご協力いただき、お一人がリモートで参加することができました。「Zoomつどい」実現に向けて初めの一步を踏み出せました。

さて、東京都支部は今年40周年を迎えました。コロナ禍で記念講演会も40年誌作成も中止となってしまいましたが、会員のために何かできないかと、急ぎょ、「コロナ禍において介護で困ったことアンケート調査」を実施し、「まとめ」を各方面に届けております。今だからこそできることを模索しながら前進していきたいと考えています。

9月27日（日）未だ会場での定例会開催が難しく、7月度に続き Zoom での開催となりました。

森代表の挨拶の後、三橋世話人の司会進行、23名の自己紹介で始まりました。（途中参加あり最終的な参加者は24名）

次に藤沼世話人から、Web サロン等 Zoom ミーティングの実施回数が67回、延べ参加人数635名、毎回、介護者の悩み・現状等が話し合わせ、最近では臨床心理士、社会福祉士の賛助会員の参加で専門的なアドバイスも受けられる場にもなっているとの報告がありました。

続いて森代表から、会員ご家族と高尾山に登っているとの話がありました。ご本人や介護者の頂上でのいい表情に代表自身も元気ももらっているとのこと。車椅子の方を3人でサポートして登ったこともあるとか。今後高尾山プロジェクト（ご本人を自然の中へ連れ出そう）となっていくかも？

次に4グループに分かれ、コロナ禍での家での過ごし方、面会が出来なかった現状、病状の変化や行政へ

の要望などが話し合わせ、30分後には全体に戻り各グループで話し合われたことを報告しました。

終盤もまだ話し足りない様子で、コロナ禍で東京から地方の親族への訪問があったが2週間デイを休まされたとの実体験談、その他思うように面会が出来ない、症状が進む、在宅介護で介護者が罹患したらどうなるか不安などの発言もありました。

閉会にあたり羽鳥副代表より、今後他の家族会とも連携して行政への要望を進めていきたいとの話、現在彩星の会の紹介ビデオを制作中で11月に発信予定であること、また11月度定例会は会場での開催予定だが、会場にZoomを備え、遠方や自宅からの参加も可能にする予定であることなどの案内がありました。

最後に司会者から、コロナ収束は当面難しく感染拡大の状況によっては定例会開催の条件等も変わる事があるのでその場合は案内する、との話があり、締めくくりに記念写真撮影をして閉会となりました。

（伊藤直子 記）

彩星の会動画メッセージの作成について

1 連絡会議による活動

新型コロナウイルス感染の影響により、認知症関係四団体からなる「認知症関係当事者・支援者連絡会議」の様々な活動が中止することになりました。そこで、連絡会議の参加団体から「認知症にかかわるすべての人に安心を届けたい」のメッセージを毎週定期的にインターネット上から発信することになりました。

<https://ninchishorenrakukai.com/about/report/index.html> では、10月5日までに各参加団体から既に20本の動画メッセージがアップされています。

若年性認知症家族会・彩星の会でも11月に動画メッセージをアップするために、羽鳥副代表を中心に急遽編成された彩星の会“デジタル庁“によって制作に取り掛かることになりました。

2 テーマと構想

この活動は、コロナ禍の困難な時にインターネットを使って認知症にかかわるすべての人々に安心を届けるものです。そのため彩星の会の動画メッセージでは、感染者数が連日三桁を続けている東京から、笑顔で元気に活動している様子を全国の仲間に伝えようと考えました。また、これからの介護の中心を担うであろうインターネット世代に訴えることを心掛けました。

彩星の会動画メッセージは「こんな時だからこそ息子・娘世代に東京から笑顔と元気を発信」をテーマにして、創ることにしました。

森代表の挨拶から始まり彩星の会の概要紹介の後に、世話人による座談会によってこれまでの活動内容を肉付けします。つぎに、2018年から二年続けて定例会

で行っていただいた当事者による講演、当事者を交えたパネルディスカッションなどの映像を流し、最後はコロナ禍における活動と今後について世話人によるインタビュー形式で紹介するものです。テーマに沿って、なるべく笑顔の映像をちりばめようと考えました。

BGMには当初「彩星の会」ということで「星に願いを」等を考えていたのですが、若年性認知症で亡くなられたお母様を想って歌っている金子史央さんの「いのちの歌」を聴いて、急遽変更することにしました。

3 動画の素材

当初、写真、ビデオなどの素材不足が大変心配されましたが、会員たちに協力をお願いをすると、「あっ」という間にその懸念が払拭されました。彩星の会が20年間地道に活動を継続してきた賜物です。

とりわけ「これから発症する人の為に症状の変化を記録として残しておきたい。」と言って定例会でビデオ撮りした、2018年11月25日の「当事者の講演」、2019年9月22日の「当事者を交えたパネルディスカッション」は、とても充実した内容でそれだけで1回分の動画メッセージを制作できるものでした。

残念なのは私が彩星の会の最大の特徴と考えている、定例家族会の後に行われている本人も参加される二次会、三次会の様子を撮った写真が無いことでした。定例会で話足りなかった家族が本人と一緒に二次会、三次会にも参加して、お酒を飲みながら楽しく歓談する様子です。そのため、あえて世話人による座談会を設け、そこで二次会、三次会の様子を多く語ってもらおうと考えました。

4 動画編集作業

写真、ビデオなどの材料が集まり、いよいよ動画編集作業です。

三人の“デジタル庁全職員”が集まって編集作業を行うことができず、大容量の動画データをギガファイル便で送り合いながら、デジタル動画処理に詳しい“デ

ジタル庁長官”を中心に、少しずつ作業が始まりました。急遽助っ人として参加していただいた“長官”一人に動画処理を任せ放しもまずいと思い、私も在宅介護の時に使っていた画像処理ソフトで動画の試作に取り組んでみました。予想通り、画像データの相性、メモリー不足などの原因だと思いますが、頻繁にPCがフリーズしてしまいます。4分間の出だし動画を試作するのに2時間×3日=6時間もかかってしまいました。

どうしても共同作業が必要な既存ビデオの編集には、16時間の勤務明けに眠気覚ましコーヒー缶を持った“長官”に編集作業現場に寄っていただき、既存ビデオを繰り返し見ながら編集作業に取り組みました。

写真やビデオに写っている多くの会員たちの楽しそうな表情等、この動画作成によって改めて彩星の会の活動の大切さ感じるとともに、多くの仲間との協力によって作り上げた連帯感を感じました。

出来るだけ多くの方々にこの動画メッセージを見ていただき、認知症の当事者、介護家族に安心と元気を届けられたらと思います。

(藤沼三郎 記)



この動画メッセージは11月9日(月)から下記で配信されます。
<https://ninchisho-renrakukai.com/about/report/detail/2020message.html>

賛助会員紹介

青柳周と申します。九段下駅のそばで法律事務所を開業している弁護士です。

私は主に不動産や保険関係の仕事をしている弁護士ですが、ある時期から、家庭裁判所や自治体から来る後見関係の仕事が増えだし、数多くの後見事件を抱えるようになりました。

後見事件の処理をしていく中で、自分には社会保障制度についての知識が欠けていることや、被後見人の方に多く見られる認知症についての知識が欠けていることが分かりました。これではよい仕事ができないと思い、まず、社会保障制度についての知識を身につけるため、社会福祉士の資格を取ることになりました。また、認知症についての知識も身につけるため、認知症関連の資格も取ることになりました。

何とか試験に受かり、社会保障制度や認知症についての一応の知識を身につけましたが、これはあくまで机上のものにすぎず、実際にご本人やご家族が何を困っておられるのか、それについてどう考えられているのか等について、本当のところは分かったわけではありません。最近はたくさん体験記等が出版されていますので、これを読めばある程度ことは分かりますが、文字にすると割愛されてしまう部分も多いので、できれば生の声も聴いてみたいと思いました。自分の担当している事件のご本人やご家

族にお話をお伺いしてみようということもできないではないですが、遠慮もあって、本当のお気持ちを話して頂くのは難しい面がありますので、どこか本音を聞ける場がないか探していました。こうして、探し当てたのが貴会です。

入会后、何度か定例会に足を運ばせて頂きましたが、大変勉強になりました。ご本人もご家族もご苦労は多いはずですが、前向きで明るい方が多く、よい意味で驚きました。仲間を持つことは素晴らしいことだと実感しました。

新型コロナウイルス問題の影響で、定例会が開けない状況になっているかと思いますが、この問題が解決し、再び定例会が開かれるようになりましたら、また、足を運びたいと思います。

それまでにいろいろ勉強しておきます。今後ともよろしく願い申し上げます。



介護 ワンポイント体験談

MEMO

Q 「入浴拒否」「いやだ」に対して

A 「ズボンが汚れているから替えましょう」
尿失禁の指摘はしないで、ズボンがよごれているからと、ご本人の自尊心を傷つけないように。

NO,25



Q 「寝室の額から絵が飛び出してくる」という訴えに対して

A 「額」を片付けたら問題解決した

NO,26



人今人

若年性認知症だった妻へ捧げる回顧録（2）

野上 高伸

“明日の記憶”

2001年9月に最初の診断を受けたときには、渡辺先生はCT画像と私の話を聞いて、「アルツハイマー病と思われるが、アリセプト〈3mg〉という薬を毎日飲むように」と言われました。私はアルツハイマーという病気について、ドイツのアルツハイマー博士が今から100年ほど前（当時）に、自分の診察をした患者についての病気の名前という程度の知識しか持っておらずに、それから様々アルツハイマー病の知識を得るために、いくつかの本を読みはじめました。妻は病院からの帰途「私の病気はどうだったの、たいしたことないでしょ？」というものですから、私も同調をして「たいしたことないよ、薬を飲み続ければなおるらしいよ」と答えましたが、それからが大変でした。薬のアリセプトは当時日本で、認可されている唯一の認知症薬でした。妻にはこの薬を毎朝、食後に飲むようにと渡しました。そして知己の知人などには「アルツハイマーと診断されたから、これからだんだん物忘れが多くなるよ」と言っておきましたが、会う人ごとに「奥さんどこも悪くないじゃない、全く前と変わらないよ」という時が過ぎました。しかし一方で、渡した薬は私がいち早く飲めぬものだから、その年の明けた1月の早いころ、ごみ箱にまとめて捨てられているのを見つけ、ひどく怒りました。「薬を飲まなかったら病気は治らないよ」と叱り、それから私が管理し本人に渡すようにしました。アリセプトも3mgから5mgへと、粉薬から錠剤へとのみやすくなりましたが、症状は様々なことが起こるようになってきました。そのころ2004年10月に発行された荻原浩氏の「明日の記憶」という本と映画は認知症のことを知る、一つの指標になるもので、私と妻はこの映画を近隣の平塚の映画館に観に行きました。当時、映画を見ることは、まだ普通のことのようにできたので、本人に「どうだった？」と感想を聞きましたが、特別な返事はなかったように記憶しています。

しかし一方では、物忘れから認知機能がだんだんに無くなる時期にありました。

それからは私が3か月に1回、開業していた渡辺医院に薬をもらいにいき、半年に1回くらいは本人も同行するような生活が続いておりましたが、そのうち徘徊が始まり、朝方や夕方、突然家を出て歩き回るようになり、当時、500世帯の団地の中を歩き回ったり、買い物に行くとスーパーの中で突然いなくなったりで、このころ私も仕事を辞めていたので、目が離せなくなりました。京都の花見に連れて行ったりしても、新幹線の中で走り回り、京都駅で突然いなくなって約1時間、駅員と探し回ったりすることもありました。そこで知り合いの町会議員にケアマネージャーを紹介してもらい、週1回、デイサービスに通うことになりました。自宅から歩いて20分程度のデイサービスは迎えに来てくれましたが、私は初めてのことで、施設ではどんなことをしているのだろうと、そと窓の外からのぞいてみたり、施設の外を職員と歩き回るころを追いかけてみたりしました。

また初診から5年たったころのことですが、国内よりも中国旅行の方が安かったので、2006年10月に上海近郊を3泊4日、一人4万7千円で3泊4日の旅をしました。たまたま同行グループは東京近郊の夫婦だけという恵まれた条件で、スムーズに旅立ちましたが、同行者には初日の会食前に事情を話しておいたので問題はなかったのですが、上海のホテルで「自宅に戻りましょうよ」と何度も言われたことには、閉口しました。

（5～6回に亘り連載します）



認知症と診断された母とのダイヤモンドプリンセス号

(集団コロナ感染) 乗船報告

元々旅行好きな私は、90歳を超え、足腰や記憶等が心もとなくなった母と旅行するには、荷物を一度送れば、同じ部屋にしながら、観光地を移動し、各種エンターテインメントも楽しめ、いろいろな人と交流し、家事を気にすることなく過ごせる船旅は快適なものです。1泊1万5千円せずに、全てが含まれており、大いに休養になります。ほんの数メートル先のトイレから戻って来ずに探しまわること等はありませんでしたが、今回も2月5日までは、楽しく過ごしました。それがまさかの新型コロナウイルス陽性者の確認で、14日間の検疫が必要となり、窓はあっても、開閉できない18㎡の部屋での隔離生活が始まりました。テレビはありますが、日本語のニュースはBSのみでした。船内放送も肝心なことはほとんど放送されませんでした。毎日お会いしていた方たちとも、お部屋番号を確認しておらず、添乗員もついていなかった我が家は、突然情報不足となりました。岸壁に並ぶ30台を超す救急搬送車や、日に日に増す陽性者数、毎日楽しく食卓を囲んだ人も陽性で搬送されたことも知り、不安が増して過ごしていました。乗船を知った認知症介護に詳しいIさんに、ラインで、私がいれば問題ないが、発病し離れ離れになったら、母は混乱し症状が一気に進んでしまうと訴えたら、「基本いつもの日常が良い。心配があっても、お母様は話したら大丈夫、非常時は、認知症の母と言うよりいつもの母として相談すると良いと思う」と助言を頂き、腑に落ちて覚悟を決めました。スマホで情報を収集、何が起きているか忘れる母に何度も話し、私も母も不安を増幅させない様にしました。途中から2~3日に一度デッキに出れるようになったとはいえ、殆どを2人で過ごしました。でも、毎日配食され、テレビを見て過ごす事も出来、経済的心配をしないで済むことを感謝し、自分たちでできるだけの事を行えばよいと思う事にしました。朝夕検温し、水分を取り、温かくし、加湿を行いました。室内を声掛けあって歩き回り、ペットボトルの投げ合いや、ラジオ体操、放映されている太極拳を行い、唱歌等で大声を出し、過ごしました。これらの日課や行動を表に記載しました。これは一日一日が過ぎていく確認の意味でも役に立ちました。配食の時、母がマスクをしな

いで出てしまい慌てる事はありませんでしたが、母なりに役に立ちたい気持ちがあったと思います。また、配食に感謝し、毎回折り方を伝えながらも母に鶴を折ってもらうようにしました。認知症の母の事を伝え、訪室した専門医とも相談し、離れての隔離等の心配も伝えました。同じように介護を必要としながら乗っている人も多く、多くの人から同じような要望が出ているとスタッフから聞きました。政府として最終的に家族と一緒に移れる病院の用意もされました。心配をきちんと伝えていくことの大切さを感じました。

母も私も、楽しむこと遊ぶことが大好きで、ベイブリッジに陽が沈むのを眺めては、「綺麗だね、幸せだね」と言いあい、二人で楽しむことが出来る花札(トランプはもう判読不能で無理ですが、何故か花札は可能です。母は勝つことが大好きです。)を行う等、出来るだけ笑い、楽しみながら過ごすようにしました。

帰りも心配でしたが、タクシーの運転手さんに理解があり、窓を開けて運転してくれて、無事帰宅しました。その後の1カ月も家から出ずに過ごし、桜の時を迎え、落ち着きました。でも船では、712人が陽性者となり、内13人が亡くなり、未だ39人が入院中です。高齢で、いろいろな病気をお持ちだったかもしれませんが、楽しく旅行出来ていたのにといい、皆様が気がかりです。

乗船したのは冬だったのに、暑い夏を過ごし、秋を迎えます。こんなことが起こるなんて、想像もしていませんでした。若年認知症の方もご家族も、同じように想定外の状況の中をお過ごしのことと思います。想定外と言うことの重みを感じる日々です。新しい生活は、ソーシャルディスタンスを取りながらも、共感・共鳴が深まる世界になることを願っています。

(匿名希望)



介護施設の面会緩和通知 厚労省 施設が制限の程度判断

厚生労働省は15日、新型コロナウイルス対策のため介護施設で家族らの面会を制限していた方針に関し、感染防止策を徹底するなどの条件付きで緩和することを都道府県や介護関係団体に通知した。コロナ対策を厚労省に助言する専門家組織の了承を受けた措置。

通知によると、地域での発生状況や都道府県などが示す対策の方針を踏まえ、施設側が制限の程度を判断する。

感染対策として、面会に来た家族らにマスク着用や面会前後の手指の消毒、飲食や大声での会話を控えるよう要求。みとりや寝たきりでなければ普通の部屋ではなく、換気可能な別室で会うことを要件とした。

他に、家族らはなるべく施設内のトイレを使わず、面会時間を最小限にとどめ、1日当たりの回数制限を設けることも必要とした。

オンラインでの面会も引き続き選択肢として考慮するよう求めた。

国はこれまで、みとりなど緊急時を除き面会制限を掲げてきた。ただ、認知症の人たちの支援団体や介護従事者からは面会できないことによる認知機能の低下を心配し、緩和を求める声が上がっていた。

広島大などが介護や医療施設を対象に実施した調査によると、38.5%が面会制限などの生活の変化で認知症の状態に影響が生じたと回答。

「認知症の人と家族の会」(京都市)が9月に実施した調査では、同様の回答が約半数を占め、今月7日に制限緩和を求める要望書を厚労省に提出した。

厚労省によると、最近が高齢者福祉施設でのクラスター感染も減少しており、今回の判断の後押しとなった。

…寄付のご報告…

下記の方々からご寄付をいただきました。(8月~9月)
佐野良子様、幣原清美様、藤井美恵子様、
伊藤直子様、二見しづ子様、羽鳥彰紘様
○寄付合計額一般寄付(1月~9月)95,500円
○20周年プロジェクト(1月~9月)
329,000円(プロジェクト累計額1,267,250円)

厚く御礼申し上げます。彩星の会事務局

Webサロン開催のお知らせ

ZOOMを使ってWebサロンを開催しています。

- 毎週火曜日:20:00~20:40
- 毎月第一土曜日 20:00~20:40

パソコン・スマホから招待メールをクリックするだけで参加できます。毎回沢山の方が参加され情報交換しています。操作方法についてもお尋ねください。

創立20周年記念事業のためのご寄付を募っています。

(振込先)

- ゆうちょ銀行(青色払込票記入)
記号番号 00100-7-635579
口座名:彩星の会20周年記念プロジェクト

- 銀行振込 三菱UFJ銀行 六本木支店 普通預金:0789681
口座名:20周年記念プロジェクト 若年性認知症家族会・彩星の会
・専用払込用紙(ゆうちょ銀行)を使用すると手数料無料になります。
ご希望の方はご連絡ください。

パンフレットと振込用紙をお送りいたします。



年末年始お休みのお知らせ

12月26日(土)~1月7日(木)

事務所はお休みします。

定例会のお知らせ

11月22日(日)の定例会は新宿区立障害者福祉センターで開催します。

開始時間13:00

終了予定15:00

久しぶりに他のご家族と顔を合わせて近況報告や自宅介護中の問題、新しい情報などを交換し合う時間にしたいと思っています。

ただ新型コロナウイルスの広がりがまだ収束していないため運営は下記のようにいたしますのでご了承ください。

- (1) 会場での入場人員に制限があるため受付人数を先着順で20名までといたします。出席される方は**11月16日(月)までに**下記までご連絡ください。
- (2) 会場では消毒用アルコール、非接触型体温計、マスクの準備をし、会場内では換気・三密対策など十分な感染対策を行います。会場で受付の際に手指消毒・検温・「健康チェックシート」のご記入にご協力をお願いいたします。
- (3) マスク装着のできないご本人用に全面型フェイスシールドを準備しております。(個数には限りがあります)
- (4) ご本人が出席される場合、ご本人のお世話は原則ご家族でお願いいたします。
- (5) 会場ではお茶お菓子などの準備はいたしません。飲み物のみ各自でご用意ください。今回は参加費不要です。
- (6) 今回は恒例の二次会はありません。
- (7) **出席できない方のために Zoom を使って会場と交流できるようにします。メールアドレスを彩星の会で把握できている会員あてに当日または前日に Zoom のご招待メールを送信しますのでURLをクリックまたはタップして入室してください。**

なおメールアドレスが未登録の方は下記アドレスまでお知らせください。

連絡先

彩星の会事務所

電話 03-5919-4185 (月・水・金 11:00~15:00)

メール hoshinokai@beach.ocn.ne.jp

彩星の会事務局または下記世話人携帯まで

(小澤) 080-5033-8185

(羽鳥) 090-7396-5843

(二見) 090-6502-2835



■ご相談・ご入会は彩星の会事務局までご連絡ください

【相談日】月・水・金 11:00~15:00

電話:03-5919-4185 FAX:03-6380-5100

E-mail:hoshinokai@beach.ocn.ne.jp HP:<http://www.hoshinokai.org>

■年会費家族会員 5,000 円賛助会員 A5,000 円/B3,000 円/C10,000 円

■お申込み(ご入金)は下記振替口座宛てにメッセージを添えてお願いします。

郵便振替口座番号:00170-7-463332 加入者名:若年性認知症家族会・彩星の会



編集後記



今年の2月から始まったコロナ騒動からもうじき1年が経とうとしている。私たちは戦争中のような我慢を強いられ、人種差別と同じような医療従事者や感染家族への差別を目の当たりにした。そして人生最後の葬式にまで参加者人数制限が設けられた。先日知人の葬儀で実際に体験したことだ。普通でない現実がそこにはあった。
来年は鬼に笑われてもよいから当たり前の日常に戻るよう、あまびえ様にお祈りしようと思う。(R)